

暮らしのヒント、静かな時間。まちとくらしの図書館をつくろう

URまちとくらし図書館

- コミュニティデザイン
- スペースデザイン
- ミュージアムPRデザイン

企画概要 *本企画はワークショップ広場が主体ではなく別施設を活用する前提のプランになっています。

- ・スターハウスやラボ41の居室一部屋ごとが図書館となる分散型図書館をつくる
- ・建築家や暮らしにまつわる著名人が特別に選書したコンセプトルームも多数
- ・読んだ本の気になる一節を抜き出し、読者がシェアできる機能も
- ・晴れた日にはワークショップひろばが読書空間に変身。気持ちの良い「外読み」体験を

参考事例



外読みイベント「森の生活」2019年



50名以上の著名人が選書「箱根本箱」



選書ワークショップ「文喫」

企画の背景

【体験に余韻の機会を】

ミュージアムツアーを体験しましたが、ツアー終了後に立ち寄れる場所がなく、そのまま駅に向かってしまいました。体験終了後の”暮らし”にアンテナが高く向いているタイミングで、そのまま滞在できるコンテンツ・場所・時間があると良いと考えました。

*ちなみに、体験をより深める”余韻コンテンツ”でいうと、ツアー終了後に希望者が残り意見交換する機会を実現していただきたいです！

実現までの流れ・運用イメージ

実現まで：

- ・使用する居室の整備。本がありすぎても読み切れないので本棚ひとつ、ゆったり座れるソファ2脚（2名利用まで想定）など最低限のリノベーションを実施
- ・書籍の用意。建築家や文化人のアサインはひらくで実施。本の調達は日販グループのルートを使って行う

実現後の運用：

- パターン1) ツアー利用者のみ、ツアー終了後に利用できる形にする
- パターン2) 各図書室を予約制にし、予約者が利用できる形にする

運営主体について

- ・この図書館をどう運用するか、どこまで押し出すかによって主体が変わる可能性があります。仮にこのプランを気に入ったいただけの場合、具体的なご相談ができればと思います

企画のポイント

実現性

- ・全国各地で「本のある場所」を作ってきた株式会社ひらくがディレクションを行う
- ・箱根本箱では50名以上の文化人・建築家に選書依頼をした実績がある

地域性

- ・絵本やエッセイなど地域住民が読める本も用意し広場での外読みで地域利用を促すことが可能。
- ・赤羽台という地域性は前面に出づらいため「URまちとくらしのミュージアム」が主語にする。

持続可能性

- ・一度空間を作ってしまうと、その後大規模なメンテナンスは必要ないため継続しやすい
- ・毎日のツアー利用者が想定ターゲットになりやすいことから、利用率向上・持続性に寄与

独創性

- ・日本で唯一の団地の変遷を体験できる施設をより魅力的にするための企画となる
- ・スターハウス、ラボ41など、団地初の登録有形文化財を体験できるということが価値となる

わたしたちについて

株式会社ひらくは、出版取次最大手・日販グループの企画領域に特化した子会社です。祖業である「本」をはじめとした文化を用いながら総合的に事業を立ち上げることで「場と機会をつくり、うれしい時間を提供」します。



文喫

主な事例：箱根本箱（2018）文喫（2018）常総市まちなか再生事業（2023）